

研究課題名：卓越した SMT 指導士のスキーマを活用したインタビューシートの開発と実施

研究代表者：平山浩輔

選手が個別の心理サポートを受ける際、心理サポート担当者は選手の問題の背景を確認するためにインタビュー面接(最初の面談)を実施している。インタビュー面接は、心理サポートを開始する上で今後のサポート計画を左右することから重要な意味合いがある。しかし、スポーツメンタルトレーニング(以下;SMT)の分野において、インタビュー面接の研究はあまり進んでおらず、心理サポート担当者の力量に依拠している所が大きい。そこで、本研究ではインタビュー面接において心理サポート担当者が選手の訴える問題を客観的に捉えるために活用できるインタビューシートの作成を行った。

インタビューシートの作成には、十分な実績とともに高度な学識と技能を有することが認定条件とされている SMT 上級指導士を対象としたインタビュー調査を実施した。インタビュー調査では、SMT 上級指導士がインタビュー面接で選手に確認している項目を抽出しながら、SMT 上級指導士のインタビュー面接に対するスキーマ(認知構造)を検討した。

インタビュー対象者は、日本スポーツ心理学会が認定する、SMT 上級指導士 10 名(全 SMT 上級指導士 47 名中)であった。調査対象者の平均 SMT 活動年数は、 20.7 ± 7.5 年であった。インタビュー調査は、インタビューガイドを事前に作成し、2015 年 7 月から 2015 年 8 月までの期間で半構造化面接により実施した。

その結果、SMT 上級指導士は 6 つのカテゴリー(「主訴」、「来談経緯」、「競技との関係性」、「心理サポート」、「成育歴」、「対象者の特性」)、21 のサブカテゴリー(「状況確認」、「相談内容」、「主訴への対処」、「主訴に関する例」、「自発来談」、「紹介」、「選手の競技での立ち位置」、「競技を始めた動機」、「競技特性の理解」、「大会・練習のスケジュールリング」、「指導者の特性」、「競技で関わる人達」、「受傷歴」、「過去の心理サポート経験」、「心理サポートへの期待」、「家族構成」、「家庭環境」、「自己理解」、「社会的立場」、「対象者の連絡先」、「日常での過ごし方」)を尋ねながら選手の問題の所在を確認していることが明らかとなった。

本研究で作成したインタビューシートには、「主訴」に加え、選手の様々な状況や特性を確認する内容が含まれていた。インタビュー面接では、選手が直面している問題を心理サポート担当者が尋ねながら背景を確認していくが、選手が自発的に語る「主訴」は、問題を的確に捉えていない場合も考えられる。そのため、本研究で作成したインタビューシートは、選手の「主訴」を確認するために、対象者の状況や特性を探索する内容が含まれていたものと推察される。今後、本研究によって作成したインタビューシートの項目は、実際の心理サポートに活用し、その中でさらに精選してインタビューシートの信頼性や妥当性を高めていく予定である。